

学科名	生物環境化学科							
科目名	アカデミック有機化学I							
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	前期			
必修・選択の別	選択							
担当者	藤井政幸							
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・脂肪族および芳香族炭化水素の構造と反応性を理解する。 ・アルコールおよびエーテルの構造と反応性を理解する。 ・ハロゲン化合物の構造と反応性を理解する。 ・アミンの構造と反応性を理解する。 							
日程と内容	<p>第1回：導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法、有機化学の位置づけと他の科目との関連について説明。電子軌道、結合、ルイス電子式</p> <p>第2回：脂肪族炭化水素の反応と合成法</p> <p>第3回：脂肪族炭化水素の立体配座</p> <p>第4回：有機化合物の立体化学</p> <p>第5回：芳香族炭化水素の性質</p> <p>第6回：芳香族炭化水素の合成法</p> <p>第7回：芳香族炭化水素の反応</p> <p>第8回：アルコールの合成法</p> <p>第9回：アルコールの反応</p> <p>第10回：エーテルの合成法</p> <p>第11回：エーテルの反応</p> <p>第12回：ハロゲン化合物の合成法</p> <p>第13回：ハロゲン化合物の反応</p> <p>第14回：アミンの性質</p> <p>第15回：アミンの合成法と反応</p> <p>定期試験</p>							
成績評価基準	定期試験	50%	実技	0%	臨時試験	30%	部外評価	0%
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%	課題	0%		
	演習	20%	計	100%				
授業到達目標の達成度	授業評価点9.0点。合格率100%。試験問題は例年よりやや難しく、応用問題も取り入れた出題であったが、得点は高く、受験者全員が良い成績で合格した。							
反省点	今年の学年は昨年度よりも学力の高い学生が多かったため、最初の講義では少し初歩的な内容が多すぎた。							
来年度の計画	講義にトピックスの紹介をより多く取り入れたい。							
授業評価アンケートに対するコメント	説明が分かりやすく、興味深かった。という記述が多かったのは幸いであった。							
履修登録者数	25名	定期試験 受験者数	22名	合格者数	22名	合格率	100%	